レプリカ環境サーバでのアップグレード手順（2019.1 -> 2020.1）

説明

レプリカ環境サーバでのアップグレード手順（2019.1 -> 2020.1）を説明しています。
※パッケージインストールではない場合の手順です。

> **注意**
>
> ・LinuxOSでの作業手順です。
>
> ・Helix Coreサーバを起動しているOSユーザが"root"として説明を行っています。
> "root"以外のユーザで実行している場合、環境に合わせたコマンド実行ユーザと権限設定をお願いします。
> ご不明の場合は、作業前にテクニカルサポートまでご連絡ください。

手順

> ⚠ **重要**
>
> この手順では、以下のコミット - エッジサーバ構成でのアップグレード手順を紹介しています。
>
> 例)　エッジサーバ2 --- エッジサーバ1 --- コミットサーバ
>
> レプリカ環境構成では、外側のサーバ(例ではエッジサーバ2)からアップグレードを行い、
> 次にエッジサーバ1のアップグレードを行います。
> 最後に、エッジサーバ1と2を停止したまま、コミットサーバのアップグレードを行います。

1. エッジサーバ2の停止
以下のコマンドから、エッジサーバ2を停止します

実行コマンド：エッジサーバ2の停止
p4 -p server:port -u super admin stop

※ server:port：アップグレード対象のサーバ(ここではエッジサーバ2)を指定
※ super：super権限ユーザを指定

2. エッジサーバ1の停止
以下のコマンドから、エッジサーバ1を停止します。

実行コマンド：エッジサーバ1の停止
p4 -p server:port -u super admin stop

※ server:port：アップグレード対象のサーバ(ここではエッジサーバ1)を指定します。
※ super：スーパ権限ユーザを指定

3. コミットサーバの停止
以下のコマンドから、コミットサーバを停止します。

実行コマンド：コミットサーバの停止
p4 -p server:port -u super admin stop

※ server:portには、アップグレード対象のサーバ(ここではコミットサーバ)を指定
※ superには、スーパ権限ユーザを指定

4. チェックポイントの取得【コミットサーバで作業します】
p4dプログラムのバージョンアップを開始する前にチェックポイントを取得します。
チェックポイントを取得するには、以下のコマンドを実行します。

実行コマンド例：チェックポイントの取得
p4d -r P4ROOT -jd

※ P4ROOTには、環境に適したパスを指定

5. チェックポイントの取得【エッジサーバで作業します】
p4dプログラムのバージョンアップを開始する前にチェックポイントを取得します。
チェックポイントを取得するには、以下のコマンドを実行します。

実行コマンド例：チェックポイントの取得
p4d -r P4ROOT -jd

※ P4ROOT：環境に適したパスを指定

6. p4dプログラムのバックアップ【全てのサーバで作業します】
既存のp4dプログラムをバックアップします。
ここでは、既存のp4dプログラムが/usr/sbinに配置されている前提とします。

バックアップコマンド例
mv /usr/sbin/p4d /usr/sbin/p4d_20191

7. p4dプログラム(Ver.2020.1)のダウンロード【全サーバで作業します】
ダウンロードサイトからp4dプログラム（Ver.2020.1）をダウンロードします。
ここでは、p4dプログラムを/tmpへダウンロードしたとして説明します。

> **ダウンロードサイト**
>
> Helix Core (Perforce) 製品ダウンロード

8. パーミッション設定【全サーバで作業します】
ダウンロードしたp4dプログラムへ実行権を追加するため、以下のコマンドを実行します

パーミッション設定例
chmod +x /tmp/p4d

9. p4dプログラム(Ver.2020.1)の配置【全サーバ】
手順7でダウンロードしたp4dプログラム(Ver.2020.1)を/usr/sbin配下へ配置します。

配置コマンド例
mv /tmp/p4d /usr/sbin

10. p4dバージョンの確認【全サーバ】
以下のコマンドを実行し、p4dバージョンがアップグレードされていること、コマンドパスが通っていることを確認します。

バージョン確認コマンド例
p4d -V

期待する結果
... Rev. P4D/LINUX26X86_64/2020.1/2051818 (2020/12/08). License: none

11. Helix Coreデータベースの更新【エッジサーバ2で作業します】
以下のコマンドを実行して、Helix Coreデータベースを更新します。

データベーススキーマ更新コマンド例
p4d -r P4ROOT -xu

※ P4ROOT：環境に適したパスを指定

期待する結果
Upgrades will be applied from '-xu' at upstream server

12. Helix Coreデータベースの更新【エッジサーバ1で作業します】
以下のコマンドを実行して、Helix Coreデータベースを更新します。

データベーススキーマ更新コマンド例
p4d -r P4ROOT -xu

※ P4ROOT：環境に適したパスを指定

期待する結果
Upgrades will be applied from '-xu' at upstream server

13. Helix Coreデータベースの更新【コミットサーバで作業します】
以下のコマンドを実行して、Helix Coreデータベースを更新します。

データベーススキーマ更新コマンド例
p4d -r P4ROOT -xu

※ P4ROOTには、環境に適したパスを指定

期待する結果
Upgrades will be applied at server startup.

14. コミットサーバの起動
通常手順でコミットサーバを起動します。

起動コマンド例
p4d -r P4ROOT -p 1666 -L log -v server=3 -d

※ P4ROOT：環境に適したパスを指定

15. Helix Coreバージョンの確認
以下のコマンドを実行し、起動中のコミットサーバ バージョンがアップグレードされていることを確認します。

バージョン情報確認コマンド例
p4 -Ztag info

期待する結果
... serverVersion P4D/LINUX26X86_64/2020.1/2051818 (2020/12/08)

16. エッジサーバ1の起動
通常手順でエッジサーバ1を起動します。

起動コマンド例
p4d -r P4ROOT -p 1666 -L log -v server=3 -d

※ P4ROOT：環境に適したパスを指定

17．エッジサーバ2の起動
通常手順でエッジサーバ2を起動します。

起動コマンド例
p4d -r P4ROOT -p 1666 -L log -v server=3 -d

※ P4ROOT：環境に適したパスを指定

アップグレード手順は以上です。